

第4回羽島市新しい時代の学校構想検討委員会 会議要旨

日 時	令和5年8月28日（月） 13時30分～15時16分
場 所	羽島市役所本庁舎 3階 301会議室
出席者	<p>【委員】 棚野委員長、松本副委員長、児山委員、石原委員、廣瀬委員、小森委員、長島委員、松下委員、長谷委員、木下委員、長岡委員</p> <p>【事務局】 森教育長、今井田事務局長、小川教育政策課長、山田同課長補佐、岡田同課政策係長、高橋学校教育課長、渡邊同課長補佐、熊崎同課学校保健係長、長江教育支援センター所長補佐、岩田生涯学習課長、林財務課長、田中総合政策課長、横山教育政策・学校支援専門員</p> <p>【参 観】 無し</p> <p>【傍 聴】 傍聴者：2名</p> <p>【取 材】 有り</p>
内 容	<p>1 開会 2 前回議事録の確認 3 議事（議事進行を委員長に依頼） (1) 市内各学校の現状と特色ある教育 (2) 羽島市の差し迫った課題 (3) 今後求められる新しい時代の教育 (4) 「今後の学校のあり方」アンケート案について 事務局から資料を用いて説明を行う。</p> <p>【委員】 地域とのつながりの強化、コミュニティ・スクールの充実について賛成である。学校運営協議会でもいろいろな形で意見を聞いているが、市は、地域とのつながりの強化、コミュニティ・スクールの充実について具体的にイメージしているのか。</p> <p>【事務局】 子供たちの成長は、学校、家庭、地域の中で育まれている。本市は、コミュニティ・スクールを導入してから7年目になる。地域とのつながりの強化とは、子供たちが地域で育っていくという意味でコミュニティ・スクールの果たす役割は大きいと考えている。特にコミュニティ・スクールの中核である学校運営協議会における熟議、中でも校長の学校の経営方針、運営方針について意見をいただくことを重視していきたい。 また、子供たちを育むための地域での活動や学びについて、コミュニティ・スクールの一環として実施している活動と、自治会やコミュニティセンターの活動の中で行っている学校と地域の協働活動の充実を図っていくことも大切になる。すなわち、学校運営協議会における熟議を反映させるためにも、学校地域協働活動として子供たちの地域づくりへの自主的な参加等を考えている。</p> <p>【委員】 学校の施設の長寿命化、改修、或いは、校舎の活用についてどのような計画を持つ</p>

ているのか。アンケート（案）に施設に関するところがあるが、例えば、学校の規模や教室の広さ等について問う必要はないか。

【事務局】

説明にあった中央小学校、中島小学校、竹鼻中学校について、現在のところそれぞれ5～10年間ほど使用年数を伸ばすことは可能である。

一方、これからの教育をどうするかによって学校施設も異なってくる。例えば、一貫教育を重視したい、桑原学園のように一小一中のつながりを重視したいとなれば、小学生も中学生も一緒に学べるような校舎に使用年数を伸ばしていくのか、或いは、大規模に改修するのか、または近隣の市のように、新たな学校を設立するのか等、選択肢が広がる。

どういった校舎の仕様にするかは、どういった子供たちを育むのか、そのためにどういった教育をするのかにかかわってくる。これらのことを考えた上で、学校施設の使用年数を伸ばすための改修、或いは大規模改修、或いは新設について検討していきたい。

【委員】

私のかかわる地域の活動では、中学生も住民の一員として参画してもらえるよう計画をしている。校舎に関しては、使用年数を伸ばす措置をとる可能性があるとのことだが、福寿小学校の体育館には、全校児童が入れないような状態であると聞いた。そのあたりについてどのように考えているか。

【事務局】

福寿小学校については、児童数が市全体としては減少している中で、増加傾向にあり、今後も微増すると見込んでいる。児童数からみた体育館の大きさとしては本来であればより大きなものに変えたいところではあるが、今年度については床と外壁の改修工事を行っている状況である。現段階では長寿命化計画に基づき目標使用年数まで使用していく予定である。

【委員】

今の国の指針によると、80年たった校舎に関しては、もう新築しなければいけないのか、もしくは、その段階でも大規模改修で対応可能と言っているのか。

【事務局】

文部科学省が作成している解説書によると、建物を良い状態で保っているという前提で、70年～80年の耐用年数が示されている。新築しなければならないわけではないが、長寿命化計画では、目標使用年数を70年～80年としている。

【委員】

多様化する子供たちへの支援、不登校児童生徒への支援ということに関しては説明があった。それ以外に羽島市が抱えている課題、例えば特別支援教育を受ける児童生徒、外国人児童生徒等に係る個に応じた支援には、どのようなものがあるのか。

【事務局】

特別支援教育に関しては、切れ目のない支援の充実を大切にしている。小学校就学前にどのような特性があり、どのように学習を進めるのかについて個別で相談をする場を設定して、家族や本人の希望を大切にしている。入学後も指導の充実を図るために計画書（個別の教育支援計画）を作成している。

外国人児童生徒に対しては、県費の非常勤、市費の支援員の力を借りながら、日本語の指導や学習の支援をしている。

【委員】

これからの時代における学校の特色や時代に合わせた教育について問うようなアンケートになっているので賛同する。どの選択肢も大事なことだと感じた。最初にどのような教育や資質能力が必要なのかを尋ね、その教育や資質能力を培うための教育環境を尋ねるアンケート構成もわかりやすい。選択式にすることで保護者も答えやすいのではないかと思う。また、最後の問いが自由記述になっているので、教育に知見のある方々の意見を聞くこともできる。未来の教育に対して、保護者や学校の先生の意見を聞こうとする姿勢がよい。

回答方法にデジタル回答を想定しているが、どのような発信の仕方を考えているのか、アンケートの内容よりもアンケートの実施方法に難しさがあるのではないか。保護者の中にも特別な支援を必要とされる方、外国人の方等がおり、そのあたりへの配慮はあるのか。また、どのくらいの方が回答すると見込んでいるのか。

【事務局】

アンケートは、メール配信アプリを活用して実施予定である。但し、デジタル回答が難しいという方には、学校の協力を得たり、教育委員会窓口において支援したりすることを考えている。

以前文化部活動に関するアンケートを実施した際には、7割ほどの回答があったので、同程度の回答率をイメージしている。

【委員】

アンケートを受ける方が、全て学校現場のことを理解しているわけではない。それを踏まえて意見を述べる。

- ・回答者の立場を問う質問があるが、PTA 役員や学校運営協議会委員等、複数の役職を兼務されている方にもわかりやすい選択肢にするとよい。
- ・回答者の年代を問う質問があるが、「多様化」と言われる時代において、年代を限定するのではなく、年代に幅を持たせるとよい。
- ・中学校区を問うものがあるが、中には、区域外就学で羽島市以外から羽島市に来ている子はいないか、その場合には、「その他」の選択肢を位置付けたほうがよいのではないか。
- ・質問に対する回答の選択肢について、文部科学省の言葉や教育振興基本計画などをもとによく考えてあるが、回答者に誤解を与えないような表現が望ましいのではないか、今一度検討願いたい。
- ・教育界で使われる専門用語について、回答者である保護者の方にもイメージのつく言葉、選択肢になっているか、極力難しい言葉は使わないようにするとよい。
- ・新しい時代の学校教育を問うアンケートなので、「わからない」という選択肢よりも「その他」という選択肢を追加して、回答者の考えを聞けるものにするとよいのではないか。

【事務局】

回答者が複数の立場を有している場合、保護者としての立場を優先してもらえるような補足説明等を考えたい。選択肢に用いる言葉や表現等においては、誤解のないように再度検討し、補足等をつけていきたい。

【委員】

アンケートは、現在市や学校で使っているメール配信アプリを使用すると思うが、一家族に複数の登録者がある家庭がある。その場合、登録している方はすべて答えるのか、或いは、一家族で意見をまとめて答えるのか。また、どの質問に対しても必ず回答しなければならないのか。

【事務局】

今回のアンケートは、羽島市の新しい教育を考えていく素地の段階なので、回答対象者は、メール配信アプリに登録されているすべての方を対象として、様々な年代の意見を聞きたいと考えている。また、すべての設問に回答してもらう予定であるが、複数回答を求める場合は、必ずしも複数の回答をしないと次の設問に進めないわけではない。

【委員】

校区や地域によって違いがある。このアンケートは、これからの新しい学校について、市全体で考えていく上でのスタートになると思う。現在小規模の学校、今後小規模になっていく可能性が高い学校の保護者の皆さんにこれからの学校をどのように考えるかを問うのであれば、羽島市の特色ある教育の中には、小規模校のよさを活かし、小規模校だからこそできる活動もあることを説明していく必要がある。

その上で今後、学校はどのように変わっていくのだろう、今の学校でよいのだろうか、市民と学校と行政が考えていくことになる。学校は、地域の歴史や生きてきた人たちの歴史、生活等、全てをつなぐものであるため、初めの一步としても慎重に考える必要がある。

そういった意味で、アンケートの中の複式学級という言葉はわかりにくいことから、複式学級の制度がマイナスのイメージにならないように、丁寧に説明していくことも大切である。

【委員】

地域により文化や規模に違いがあるため、答える方がどこの地域、どのくらいの規模の学区なのか分かるような問いや選択肢にしたほうが、それぞれの地域のニーズがわかるのではないかと。

今後どのような教育が必要であるかという問いに対する選択肢は、市内の学校が考えている内容を選択肢の前面に押し出してもよいと思う。

選択肢の言葉については、回答者がイメージできる表現を使うことが望ましい。特色ある教育で挙げた内容とアンケートの選択肢の整合性が取れているとよい。

【事務局】

小学校区で選択いただくことも考えた。しかし、今回は初めてのアンケートになるため、回答者に誤解が生まれないようにと考えて中学校区とした。貴重なご意見として、今後の参考にしたい。

【委員】

回答者の所属を問う内容があるが、「保護者」は、所属ではないので、別の問い方がよい。アンケートの意図はよくわかる。しかし、選択肢の内容の重なりが気になる。例えば、コミュニケーション力と言っても話す、聞く、伝える等、非常に幅広いので、そのあたり教育委員会として伝えたいことや聞きたいことをはっきりとさせるとよい。

【委員】

「積極的に取り組んでほしいことを3つ挙げてください」とあるが、「いじめ防止」と「不登校児童生徒の対応」については、取り組んで当然なので選択肢に入れること自体ふさわしくない。別枠の質問として、「いじめ防止」にかかわる取組みについて問うとか、「不登校児童生徒の対応」について問うことを考えたほうがよい。

【委員】

学級数や生徒数を聞く問いがあるが、新しい時代の教育を実現するための視点から

答えてもらえるか、地域の特性やもしかしたら統廃合の対象になるのではないかという視点も関係する可能性がある。そうしたときにこのアンケートは、何に使われるアンケートなのかを示すことが大切である。例えば、この委員会の討議の資料に資すると限定した方が、アンケートやアンケート結果の1人歩きを防ぐと思う。

【事務局】

保護者の立場、あるいは関係の方の立場からの意見をもとに、文言や表記について慎重に検討していく。貴重な意見が聞けて参考になった。また、ただ単にメールで配信するだけではなく、何らかのサポートを考えるとともに、アンケートはこの検討委員会の審議の際の資料に資するという形で進めていきたい。

(5) 喫緊の課題に対する中間報告

事務局から資料を用いて説明を行う。

【委員】

運動系の部活動における指導者と文化系の部活動における指導者では、そもそも指導のスタンスが異なっている。指導者や運営の団体をどうするかということも、運動部とは違う形になるはずである。大人や高齢者が大勢いる中に、子供たちが何人か入って行って、ワイワイやりながら、作品を作ったり、行動したりといった部活動の形があってもよいのではないかと思う。

地域のおじいちゃんやおばあちゃんが指導者として活動できるよう整えてもらえると、それが結果的に地域と学校をつなぎ、生涯学習に繋がっていくと思う。そして、そうした環境が学校や家庭以外の大事な居場所になってほしいという思いもある。それは、不登校の対応にもつながって、受け入れられる場所として居場所づくりにもなる。

せっかく文化部活動を地域移行するのであれば、大胆に検討し、羽島市は、新しい発想で文化部活動の地域移行を実施してもらいたい。

メタバース適応指導教室には期待している。民間企業が仮想空間を使った不登校対策をやろうとしている。市という立場からでも、その発想を取り入れた先進的な取組みになると思う。今後はメタバースの中で授業を行うなど、色々な可能性が見えてくる。そのあたりについて今後の見通しを教えてください。

【事務局】

現在、不登校対応について適応指導教室「こだま」や「のぞみ」を通じて、児童生徒との関係づくりができています。ただ、家庭から出られず、どことも、繋がりができていない児童生徒が市内に若干名います。そういった子供を中心に、このメタバース適応指導教室を用いていきたい。

【事務局】

本日の意見をもとに再度事務局で検討・精査していく。また、市のHPでも会議要旨を公開したり、「教育委員会だより」を通して情報の発信に努めたりするなど、市民の皆様幅広く周知するとともに、学校関係者とも情報共有していく。

4 その他

5 閉会